

JRRN 「小さな自然再生」 普及促進事業

JRRN 事務局／水循環・水環境グループ 研究員 後藤 勝洋

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。ここでは、昨年末に開催した現地研修会と昨年度の助成事業でいただいた河川基金優秀成果表彰について報告致します。

1. 第7回小さな自然再生現地研修会 @ 吉井川流域

平成29年12月6日（水）、7日（木）の2日間、『第7回「小さな自然再生」現地研修会』を、岡山県西粟倉村の吉井川流域にて開催致しました。地元企業であるエーゼロ株式会社、応用生態工学会（大阪地区会、岡山地区会）の協力を得て開催した今回の研修会では、計28名の参加者に集まっただけ、河口から源流までの現地視察、座学とワークショップによる1泊2日の充実した研修内容となりました。

第7回「小さな自然再生」現地研修会 @ 吉井川流域

【12月6日（水）】岡山駅集合

ー吉井川流域現地視察

ーエーゼロ株式会社の取り組み紹介

ー「小さな自然再生」に関する座学研修

①小さな自然再生のすすめ

（三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所）

②事例紹介「安価に川をつなぐときの注意点」

（浜野龍夫、徳島大学大学院）

③事例紹介「多主体協働による琵琶湖固有種ビワマスの産卵・遡上環境再生の取り組み」

（佐藤祐一、滋賀県琵琶湖環境科学センター）

ー意見交換 ～現地視察を踏まえて課題の洗い出し

【12月7日（木）】エーゼロ株式会社集合

ーワークショップ

『吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何かできるか？』

(1) 吉井川流域現地視察

吉井川河口から岡山県西粟倉村を流れる支川吉野川には50以上の横断構造物が設置されており、そのうち代表的な堰や地元の憩いの場となっている川づくりの目標（リファレンス）となる箇所を、バスで上流へ移動しながら視察を行いました。

(2) 座学研修

人と自然の共生する持続可能な社会を目指して活動しているエーゼロ株式会社の取組み（ウナギの養殖）を紹介していただいた後、3名の講師による川の連続性、川と人のつながりを再生した事例

発表を通じて、「小さな自然再生」に取り組む際の工夫、進め方、課題等について学びました。

(3) ワークショップ

「吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何ができるか」をテーマに、具体的な対策内容をワークショップ形式で提案、意見交換を行いました。3つの班に編成された参加者それぞれが、西粟倉村・吉井川水系で実施できそうな小さな自然再生のアイデアを出し合い、各班からの提案内容を発表した後、講師による総括をいただきながら、全体討議を行いました。



吉井川流域現地視察の様子



ワークショップの様子

2. 平成29年度河川基金優秀成果表彰

昨年度取組んだ河川基金助成事業『「水辺の小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成』が優秀成果賞に表彰されました。これは、昨年度に続く2度目の受賞です。当活動へのご協力、ご指導いただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、JRRNでは今後も水辺でできる「小さな自然再生」を軸とした川・人・地域づくりに貢献してまいります。



河川基金助成事業優秀成果表彰式（平成30年1月28日）

JRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に事務局の共同運営を行っています。